



# あつま

9月定例会号

No. 165

平成28年10月発行

# 議会だより



ゴールを目指して  
ラストスパート!  
(第17回健康ふれあい  
マラソン大会)

第3回定例会、(補正予算)	2~4
委員会活動レポート	
総務文教常任委員会：職員の超過勤務状況、宮の森こども園・厚南子育て支援センター・厚南児童会館・上厚真放課後児童クラブの施設・運営状況	5~6
産業建設常任委員会：交流促進センター「こぶしの湯あつま」施設・運営状況及び改修内容	7
<b>一般質問</b> 「ここが聞きたい」	
木戸嘉則、森田正樹、伊藤富志夫、高田芳和、下司義之、吉岡茂樹 6氏が問う	8~13
<b>国に物申す</b> 地方財政の充実・強化を求める意見書、所得税法第56条廃止を求める意見書、林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書	14~15
議決案件(賛否状況)	16
議会のうごき	17
北海道町村議会広報研修会、スポーツ少年団(厚真ファイターズ)...	18

# 9月定例会

9月8日に第3回定例会が開催され、一般質問6人、議案7件、副町長の選任および教育委員会委員の任命同意2件、決算に基づく健全化判断比率等の報告6件、承認3件、陳情1件、意見書案3件が審議された。

## 副町長の選任に同意



近藤 泰行氏

## 教育委員会委員の任命に同意



佐藤 泰夫氏

**議案第1号 財産の取得  
(総合行政システム機器)**

取得方法 随意契約  
取得理由

総合行政システムは更新から約7年経過し、修理部品の供給保証がなくなり故障時に修繕が不可能となる恐れがあるため機器を更新する。

取得金額 (税込み)  
1998万円

取得相手

北海道市町村備荒資金組合

更新機器

メインシステムサーバ、バックアップシステムサーバ、ファイルサーバ、バックアップデータサーバ、ハンディターミナル

**議案第2号 財産の取得  
(校務用パソコン機器)**

取得方法 指名競争入札  
取得理由

教職員のパソコン機器が7年経過し、老朽化で故障も出てきているため、小中学校4校の校務用パソコン並びにレーザープリンタを更新する。

取得金額 (税込み)  
894万円

取得相手

北海道市町村備荒資金組合

台数

校務用パソコン

4校 計46台

レーザープリンタ

各学校1台(計4台)

### 陳情第1号

本年6月7日に産業建設常任委員会に付託された「青果物予冷貯蔵施設建設に係る支援要請」(陳情者/とまこまい広域農業協同組合 代表理事組合長秋永徹)の陳情について審査を行い、次のとおり決定した。

審査の結果

採択すべきものと決定

付帯意見

- (1)生産拡大及び集荷体制の確立に努め、施設の稼働率確保を図ること。
- (2)青果物予冷貯蔵施設の建設にあたっては、最小経費で最大効果が得られるよう陳情者と十分協議・検討すること。

## 一般会計補正予算

2億9692万円を追加  
歳入歳出予算の総額が  
62億4955万円となる

### 情報発信事業

事業予算額 755万円

まちづくり推進課企画調整G

あつまプロジェクト発信事業を展開し、町外向けの情報発信の強化や町に対する認知度を高め、交流人口の拡大や移住・定住の増加を図る。

- 内 容
- 1 町公式ホームページのリニューアル (ウェブ分析、町公式ホームページの更新)
  - 2 あつまプロジェクトの発信プランの検討
  - 3 情報発信スキル向上研修会

事業費 あつまプロジェクト発信業務委託 730万円/情報発信スキル向上研修会 25万円

財源内訳

国道支出金 200万円  
一般財源 555万円



## 臨時福祉給付金及び障害・遺族年金

### 受給者向け給付金事業

事業予算額 683万円

町民福祉課福祉G

低所得の方を対象に臨時福祉給付金および障害・遺族年金受給者向け給付金を支給する。

#### 内容

##### (臨時福祉給付金)

##### 1 支給対象者

平成28年度分市町村民税が課税されていない方。ただし、市町村民税が課税されている方の扶養親族等、生活保護の被保護者を除く。

##### 2 基準日 平成28年1月1日

##### 3 給付額 対象者1人につき 3000円

##### 4 対象予定者数 900人

##### (障害・遺族年金受給者向け給付金)

##### 1 支給対象者

(1) 臨時福祉給付金の支給対象である方。

(2) 平成28年5月分の障害基礎年金、遺族基礎年金等を受給されている方。

※上記の2つの要件を共に満たす方。

ただし、年金生活者等支援臨時福祉給付金を受給された方は対象外。

##### 2 基準日 平成28年1月1日

##### 3 給付額 対象者1人につき 3万円

##### 4 対象予定者数 50人

#### 期間

平成28年9月30日～平成29年1月31日

#### 事業費

臨時福祉給付金及び障害・遺族年金受給者向け給付金事務事業 263万円

臨時福祉給付金及び障害・遺族年金受給者向け給付金給付事業 420万円

#### 財源内訳

国庫支出金(全額国庫補助金) 683万円



## 子育て支援高校生通学費還元事業

事業予算額 199万円

町民福祉課子育て支援G

町外の高校に通学する生徒を持つ保護者に通学費の一部を「子育て支援厚真町金券」で還元し、保護者の経済的負担の軽減と地域経済の活性化を図る。

事業対象者 町外の高校に通学する高校生

還元金額 一律 月額5000円

年間10カ月分(8月と1月を除く)

※本年度は、平成28年10月から平成29年3月までの間の5カ月分を還元。

#### 還元方法

現在実施中の「厚真町子育て支援医療費等還元事業」に高校生通学費を追加し、保護者に還元する。

#### 財源内訳

基金繰入金(ふるさと応援基金) 190万円

一般財源 9万円

#### 【主な質疑】

問 町外に通学する厚真の生徒に補助することは、最終的に厚真高校の存廃を考えての事業展開なのか。

町長 高校の選択は、基本的に子どもの選択になる。政策が基本的に相反すると見えるかもしれないが、それぞれ個人の選択を基本にしている。それぞれに目配りし、支援をして、子どもたちが将来のために努力することを応援してあげたいと考えている。

## 公共施設LED化事業

事業予算額 9963万円

総務課研修防災G

厚真町地球温暖化対策実行計画に基づき、町で設置した街路灯等をLED化することで、二酸化炭素排出量および電力消費量を大幅に削減する。

#### 内容

町で設置の街路灯等全691基をLED化する。

(うち、灯具一式交換は409基)

期間 平成28年10月～平成29年3月

#### 財源内訳

道補助金(地域づくり総合交付金) 490万円

公共施設維持補修繰入金 950万円

地方債(地域活性化事業債) 8520万円

一般財源 3万円

## 各種団体補助事業

### (北海道厚真高等学校教育振興会補助金)

事業予算額 1415万円(補正額15万円)

生涯学習課学校教育G

交通不便地として通学に不利と認識されている北海道厚真高等学校について、通学手段の利便性と多様性を図るとともに、通学費の補助についても現行の補助率をかさ上げし、経費面においても負担を軽減する。この施策展開により、同校の入学増員を図り、存続を確固たるものとする。

#### 新たな支援策

- 1 あつまバス路線に沼ノ端線を新設して、主に沼ノ端駅周辺の生徒が乗り換えをしないで通学できる。
- 2 通学費の補助率が現行の負担額を上回らないように4分の3(75%補助)から5分の4(80%補助)にかさ上げし、負担額の軽減を図る。
- 3 町内の遠距離通学者(公共交通機関利用者は除く)は、現行の片道6km以上で上限1万6000円/年から、実費相当として町職員の通勤手当に関する規則に準じて支給する。(片道2km以上)

※支給は子育て支援厚真町金券とする。

距離	支給額(月)
片道2km～5km	2000円
片道5km～10km	4200円
片道10km～15km	7100円
片道10km～15km	10000円

支援開始月日 平成29年1月1日

財源内訳

一般財源

15万円

## 厚真町地域活性化商品券事業

事業予算額 1億2130万円

産業経済課商工観光林業水産G

町内消費拡大による地域活性化を図ることを目的に、プレミアム商品券を発行する。

事業主体 厚真町地域活性化商品券実行委員会

名称 厚真町地域活性化商品券

販売価格 1口1万円(額面1万2000円)  
(1000円券8枚、500円券8枚)

購入限度 1世帯30口 30万円(額面36万円)

販売方法

購入希望者を事前に受け付ける。(希望者が多数の場合は、高額希望者の限度を引き下げて、希望者全てに販売する。)

購入申込期間 平成28年10月1日～10月11日(予定)

利用有効期間 平成28年10月19日～

平成29年3月31日(予定)

利用店 とまこまい広域農業協同組合厚真支所および町内協賛加盟店

財源内訳

商品券売上収入(1口1万円×1万口) 1億円

町補助金(割増支援)(1口2000円×1万口)

2000万円

町補助金(事務費等)

130万円



## 災害復旧事業(専決処分を含む)

事業予算額 3036万円

産業経済課(農政G・商工観光林業水産G)、建設課土木G

台風9号により被災した農業施設等や林業施設および道路河川について、災害復旧工事や補助等を行う。

被災種別および箇所数・事業費

○農業施設等 農地 1カ所/用排水・井堰 4カ所/農道 1カ所 計 6カ所 640万円

※その他の農業施設等災害55カ所分(875万円)については、多面的機能支払事業により対応。

○林業施設等 林道(幌内宇隆線、幌内高丘線、トコンマの沢線、幌内栄線) 計 8カ所 249万円

○道路・河川 道路災 16カ所/河川災 43カ所 計 59カ所 2147万円

財源内訳

地方債 210万円

一般財源 2826万円

# 委員会 レポート

## 総務文教常任委員会

委員会は7月21日、職員の超過勤務状況事務調査と、宮の森こども園・厚南子育て支援センター・厚南児童会館・上厚真放課後児童クラブの施設・運営状況について所管事務調査及び現地調査を行いました。

### 主な質疑等

#### 【職員の超過勤務の状況について】

問 28年度以降も超過勤務が多くなっていくという可能性が出てくるのか。  
答 新規の事業に伴い出てくるので、今後その事業量によっては増減を伴うのではないかと見込んでいる。

問 職員全員で、この超過勤務をバランスよく仕事の割り振りができないのか。  
答 グループ制をしている段階から、担当を決めて事業の振り分けを行っている。今後もそういうことは徹底していききたい。

問 グループごとの是正という考え方は。  
答 その時々によ



よってこの増減というのは非常に大きく変動している、そのような配慮は今までもしている。

厚真町独自の政策を進めていくためには、それなりの部署にしたいという願いはある。増加させることが非常に難しい事務の見直し等の中で、少しでも余力を生み出して重点的にやっつけていかなければならないところに少しでも増やしていくことも考えている。嘱託職員、再任用の職員、それと臨時職員を活用しながら今

後ともやっていきたい。

問 グループ制の見直しの方向は。  
答 場合によっては可能なのかもしれない。ただ、非常に専門性の高いものがあり、一定の経験とか専門的な知識を持つていないとできないというのもある。現実的には非常に厳しい、難しいところがある。

問 健康管理の部分をごのように考えているのか。  
答 長時間労働者への医師による面接指導制度というものが、厚労省から一定の基準が示されている。超過勤務を生じている職員・管理職も含めて、勤務状況による体調健康面に影響がないように、面談制度というものを徹底させていきたい。

問 再任用を有効利用しては。  
答 そういう方々を大いに活用して対応もしていきたい。

問 再任用を有効利用しては。  
答 そういう方々を大いに活用して対応もしていきたい。

#### 【宮の森こども園の運営状況について】

問 給食の提供について、小学校が夏休みや冬休みになった場合の給食提供方法は。  
答 基本は給食センターで全部提供する。それができないときに限っては自園調理になる。

問 給食の提供について、小学校が夏休みや冬休みになった場合の給食提供方法は。  
答 基本は給食センターで全部提供する。それができないときに限っては自園調理になる。



れた指導計画づくりや子どもの感性を磨く機会・体験について、副園長を中心として先生方が話し合いながら進めている。これから先、子どもたちが大きくなったら非常に生かされるのではないかなと思う。

問 父兄からの評価は。  
答 保護者の方からも好意的な評価の声がよく聞こえている。

問 道道への出口の見通しが悪い。改善の必要があるのでは。  
答 道道の改良工事が計画されているので、それに合わせて担当課とも協議していきたい。

問 道道に面した柵に、ドライバーがこども園だとわかるような表示をつける検討ができないか。  
答 こども園の建物だということがわかるような表示を検討していきたい。

問 こども園は上厚真地区の移住定住にもキーとなる重要な施設だと思いが、新しくなる際に大きな変化があったか。  
答 先生方が一人ひとりの子どもたちに丁寧に対応しているので安心して遊ぶの子どもを伸ばす仕掛けを取り入

問 こども園は上厚真地区の移住定住にもキーとなる重要な施設だと思いが、新しくなる際に大きな変化があったか。  
答 先生方が一人ひとりの子どもたちに丁寧に対応しているので安心して遊ぶの子どもを伸ばす仕掛けを取り入

# 委員会 レポート

問 アレルギーの事故がないよう、先生方の勉強を強化していただきたい。  
答 事故のないよう、先生方で間違いのないようにしていきたい。

問 避難訓練の対応は。  
答 火災や地震、不審者災害など、年間12回の中でいろんなケースを想定し、時間帯も変えながら訓練を行っている。

新しい施設になり、どこに逃げたら一番良いかということも含めて4月からいろいろ検討している。先生方の意識もすこく高くなっているのではないかと思う。

問 一時預かり保育の利用はあるか。また、2歳児の定員について、入園時の定員と実際の数にかなり差があるが、どのように扱っているのか。  
答 一時預かりについては、現在のところまだ利用者がないので、この先来たら対応する。2歳児室についてだが、

当初想定していた定員は6名で、実際には17名となっているが、保育室に必要な最低基準は十分に満たしており、まだ基準的には余裕がある造りになっている。



【厚南子育て支援センターの運営状況について】

問 支援センター、児童会館の防犯上の施設の改善は。  
答 学童保育の時間帯だけ開けておけばいいのだが、児童会館の中に子育て支援センターが入っている自由解放しているため、施設できない。対策について、今後、教育委員会と協議していきたい。

問 支援センター、児童会館の防犯上の施設の改善は。  
答 学童保育の時間帯だけ開けておけばいいのだが、児童会館の中に子育て支援センターが入っている自由解放しているため、施設できない。対策について、今後、教育委員会と協議していきたい。

【厚南児童会館の運営状況について】

問 建物全体を含めた避難訓練を実施する体制を取っては。  
答 児童会館側の避難経路の確認も必要だと思うので、今後計画をしていきたい。

問 外の遊具の活用について、こども園と支援センター、学童保育の使い分けは。  
答 学童、放課後児童クラブのお子さんたちにも週2回ほど時間を決めて使っていた。こども園の子どもたちとは合同にはなりにくいので、時間帯を分けて使うようにしている。

支援センターは、こども園が11時くらいに園庭からお部屋に戻るの、11時過ぎくらいから30分くらい園庭を使わせてもらっている。

問 一緒に使わせないとすることは、けがなど何か

弊害があるのか。

答 低年齢の子どもが遊んでいるスピードと小学生が遊ぶ・行動するスピードが全く違うので、支障のないようにと考えて、時間帯で使い分けをしている。

問 交流のフリースペー  
スの将来的な考えは。  
答 建設を予定している上厚真中央公園を主体に、一体的な利用をしていくということの中で、今計画を練っている段階である。段階的に移行していくということ、中央公園はまだ年数がかかるがそれらと併せてやっていきたい。

問 下駄箱が狭くて上靴が散乱していたので、皆さんの靴が入るよう下駄箱の設置を。  
答 把握している範囲では足りていると思っていたが、様子を見て対応をさせていただきたい。



【上厚真放課後児童クラブの運営状況について】

問 外遊びが不十分だということだが、パークゴルフ協会の指導でパークゴルフをするのも1つの方法かなと考えるが。  
答 地域の方と子どもたちがかかわる機会をつくりたいと思っている。現場の先生と相談した上で、希望を募ってそのようなことが実現できるように対応できたらと思う。

問 下駄箱が狭くて上靴が散乱していたので、皆さんの靴が入るよう下駄箱の設置を。  
答 把握している範囲では足りていると思っていたが、様子を見て対応をさせていただきたい。

問 体育館の整備が仮設のような状況に感じたが、整備や措置について今後改善できるものかどうか、町民福祉課と協議しながら考えていきたい。

問 体育館の整備が仮設のような状況に感じたが、整備や措置について今後改善できるものかどうか、町民福祉課と協議しながら考えていきたい。

# 委員会 レポート

## 産業建設常任委員会

委員会は7月22日、交流促進センター「こぶしの湯あつま」の施設の状況と運営状況および改修についての所管事務調査を行いました。

### 主な質疑等

**問** 通常の勤務体制は何名ぐらいか。

**答** 通常の業務であるが、支配人1名、事務1名、フロント昼2名・夜2名、食材2名、設備屋1名・夜1名、警備1名、清掃5名、厨房朝1名・昼1名・夜1名、ホール1名。臨機応変に、食材担当にホールやフロントから手伝い等に行くような形をとっている。

**問** 実習室の利用者は町内者か。

**答** 人数は把握してはい



ないが、使用団体は町外が2件で、あとについてはほとんど町内である。

**問** 宿泊客の稼働率は今年度のリニューアルで改善していくのか。

**答** 稼働率を上げるため、今までレストランの夕食は20時までだったが、今年から、それを超えて夕食を提供していただいた

い方は事前に申し込んでいただければ用意するなど、宿泊客の利便性を考えて宿泊を良くするような取り組みをしていく形を取っている。

リニューアル基本構想の中で、利用状況や近隣の利用状況等を調査させているので、それを勘案しながら検討していきたいと考えている。

**問** リニューアルに向けて温泉化の考えは。

**答** 温泉の関係については、リニューアル構想の中でそれも含めて調査していた。

**問** 仕入れ原価率が39%というのは、通常のレストラン等の数字から見ても非常に高いのでは。

**答** 原価率であるが、すべて町内の業者を使おうという形になっているので若干高くなっているのかという気はしているが、逆に、商品の単価を上げ



利用者の状況

(単位：人)

	H23	H24	H25	H26	H27
日帰り入浴者数	75,583	69,954	69,766	70,232	68,379
レストラン (件)	32,764	30,844	34,707	33,747	34,205
宿泊者数	4,560	4,298	4,650	4,716	4,797
宴会利用者数	3,270	2,646	2,583	2,063	2,243
合宿者数	971	1,586	1,633	1,398	1,323
加工実習室	384	505	417	454	474
貸室	126	375	118	296	243
合計	117,658	110,208	113,874	112,906	111,664

### リニューアル基本構想策定調査日程

平成28年度 リニューアル基本構想策定調査

- ・調査業務委託先  
(株) 日本コンサルタントグループ
- ・委託期間 平成28年9月20日まで
- ・調査業務内容
  - ◇現状分析 (利用者の分析、経営実態)
  - ◇利用者満足度・ニーズ調査 (アンケート調査)
  - ◇類似事例調査
  - ◇館内施設調査とリニューアルの方向性の検討 (館内施設の評価および課題・問題点整理)
  - ◇リニューアル構想 (全体のコンセプト、館内施設のリニューアルの方向性)
  - ◇管理・運営の検討・提案

平成29年度 実施設計

平成30年度 改修工事

## 一般質問

ここが聞きたい

## 在宅医療

### 在宅医療の体制整備は喫緊の課題かと思うが

**答** 早急に地域包括ケアシステムを立ち上げ関係機関と連携を密にしていく



木戸嘉則 議員

**問** 団塊の世代が後期高齢者になる2025年には、在宅医療で療養する高齢者が現在よりも30万人以上増えると予想されている。超高齢化社会に続き、多死社会が到来するといわれる中、医療機関だけでは高齢者患者の受け入れに限界があり、在宅医療の体制整備は喫緊の課題と思うが、町長の考えは。

また、担い手不足が原因となっていることから、今後、医療機関と相談し、町としても看護師のなり手の確保や処遇改善などへ助成してはどうか。

**町長** 町として、地域包括ケアシステムの早急な立ち上げと、医療機関を含めた連携を密にしていくことに対して取り組んでいきたい。また、平成29年度建設を目指している高齢者の共同福祉住宅（サ高住）的な住宅機能もさらに充実が必要ではないかと考えている。人材確保については、

本町の医療機関であるクリニックにおいてもいろいろと町と連携を深めていただいている。町としても、クリニックの人材確保について当然支援をしていきたい。



## 議会を傍聴しませんか

定例会は、毎年3月・6月・9月・12月に行われます。

臨時会は、審議する案件が緊急のときなど、必要に応じて行われます。

どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。

また、定例会・臨時会とも、議会ホームページで議会の様子を生中継していますので、インターネットでもご覧いただけます。

■問合せ先 厚真町議会事務局（☎27 - 2485）







森田正樹 議員

## 災害対策支援

# 昭和56年以前の木造住宅の 無料耐震診断を早急に行うべきでは

答 広報活動を強化し無料診断を行っていく

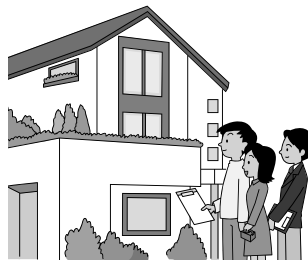
問 今年4月14日並びに16日に発生した熊本地震は、気象庁震度階級で最も大きな震度7を観測し、今なお、約3000人の方が避難生活をされている。過去、道内でも平成15年9月に十勝沖地震で地震規模8の地震が発生、平成7年度に発生した阪神淡路大震災では人的被害のおよそ9割が古い木造住宅の倒壊などである。

そこで、今後の地震に備え、昭和56年以前の木造住宅の無料耐震診断を早急に行うべきではないか。

広報活動をさらに強化して、北海道と本町技術者をもって無料診断を行っていく。

町長 本町では56年以前の旧耐震基準で設計建築された木造住宅956戸のうち、民間木造住宅が910戸、公共木造住宅が46戸である。耐震診断については、本町が窓口になって北海道の無料診断をホームページで周知しているが、本町ではまだ2件しか実績がない。

町でも既に予算化し、住宅診断改修事業を実施して、町職員が無料で耐震診断を行っているが、PR不足もあって実績がない。そういう状況を踏まえ、既存の民間木造住宅の耐震診断については、



## 子育て支援

# 子育て世帯に民間住宅を含めた家賃補助制度の施策が必要では

答 住宅手当的な補助を構築していく段階にない

問 現在、子育て支援住宅が上厚真に10棟あり、さらに5棟建設される。子育て世帯が入居している町営および民間住宅では、収入の多い方は町営住宅には入れず、民間住宅は家賃が高いなど、子育て世帯や共働きにはハードルが高い環境にある。

そこで、民間住宅を含めた家賃補助制度のような施策が必要ではないか。

町長 高校生以下の子どもたちが同居している子育て世帯は344世帯で、そのうち、町営・公営住宅も含めて97世帯であり、民間の賃貸住宅は約10戸に満たないくらい。

現在、本町で進めている子育て支援住宅は、町外の子育て世帯に特化した住宅で、家賃が5万6000円をスタートに、子ども一人当たり5000円ずつ家賃を控除する。同じ所得や構成の子育て世帯が公営住宅に入った場合では、実際に3万円台で入居できる。

今、公営住宅が5、6戸は空いている状態で、防災無線で皆さんに呼びかけている。あえて民間賃貸住宅に住まわれている方に住宅手当的な補助を構築していく段階にはない。

## 一般質問

ここが聞きたい

## 高齢者福祉

### 高齢者への無料入浴券交付を 今までどおり元に戻しては

**答** 真摯に耳を傾け対応していきたい



伊藤富志夫 議員

**問** 今年度、高齢者入浴助成事業でこぶしの湯あつみの無料入浴券の交付枚数が12枚から6枚になった。理由は行事参加をより促していくという意味で、残り6枚の券を行事参加した人に交付するということがあったが、上半期の行事参加はどうかであったか。

また、入浴券を半減したことに反対の声を多く聞いている。年度途中で総括はまだ出来ないが、来年は元に戻したらどうか。

**町長** 交付枚数を半分にした経過は、交付申請状況や申請後の利用状況を見ると想定の中程度の利用しかない。そこで、イベントの参加率をもっともって上げていくために、従来の12枚を6枚に減らし、残りの6枚をイベント参加者に入浴券を差し上げてリピーターを増やしていく計画だった。ただ、広報活動が適切でなく上半期の参加率は特

に良くなっていない。次年度はしっかりと検証

し、声にも真摯に耳を傾け、対応していきたい。

### 入鹿別川の河川工事を進める必要があるのでは

**答** 道に強く訴えかけていきたい

### 災害対策

**問** 今回の台風と長雨の影響で鹿沼地域の入鹿別川は氾濫してないが、その川の両側では水害被害が起きた。原因は川の流れ

に問題があるのではないか。

川の中は泥と柳の木が茂り、流れが悪い。河川工事は下流から中ほどまで終わっているが、残りが全然進んでいない。早急に河川工事を進める必要があるのではないか。

**町長** 台風9号の影響で豊年橋から上流部が冠水・浸水をした。構造的に

は入鹿別川に対する内水の排除が十分でない状況だ。平成20年度から河川改修工事をしていくが進捗が遅い。指摘のように流水を阻害する要因が改善され、のみ込みが早くなれば内水排除も進む。そういった点で入鹿別川の河川改修工事については道に強く要請してきたが、さらに上位の課題として道に強く訴えかけていく。

(こんな質問もしました)  
**問** 後期高齢者の保険料軽減特例の見直しについて質問する。



入鹿別川への内水排除が悪いため冠水した牧場

母子支援

妊婦健診に係る

交通費の助成は

答 補正予算を計上する

問 妊婦健診に係る助成について、これまで北海道が離島在住者に限り補助してきたが、今年度より、妊婦の経済的負担の軽減と少子化に歯止めをかける目的で、平成28年度からこの補助制度を全道に拡大したとの報道を見た。

また、この北海道の助成制度を積極的に活用し、妊婦世帯の経済的負担の軽減を図っていくべきと思うが、町長の考えをお聞きする。

町民福祉課参事 本年4月から、離島以外に分べん可能な産科や医療機関までの距離が遠くて、妊産婦の心身両面の負担や経済的負担の大きい妊産婦を対象に、健診、出産時、出産後の健診1回の計16回分について、厚真町は交通費の一部が助成される内容となっている。具体的には、北海道と町の助成で1万5200円程度になる。



高田芳和 議員

町長 北海道が取り組む以上、町も道民の権利であるので、第4回定例会で、28年4月に遡及した

制度設計の説明と、必要な補正予算を計上する。



表町公園改修

水道・電気設備の常設化は

答 できる限り対応する

問 本町の一大イベントである田舎まつり。厚真町の魅力を町外の皆様に発信する会場となる表町公園に、水道・電気の仮設施設が道路を横断している状況になっている。

来場者がこの施設につきまづき転倒し、けがをさされていく。また、排水ホースも露出しており、衛生環境的には好ましくない状況になっている。田舎まつりを満喫しようと楽しみに来場して下さる皆様の衛生環境も含めた安全を確保するため、常設施設を設置すべきと思うが、町長の考え方を伺いたい。

町長 表町公園で田舎まつりを開催するために、常設設備がない電源・水道があるいは下水につながる施設については、仮



田舎まつり会場道路を横断し設置されている電気・水道設備等



設にならざるを得ない状況が続いていた。仮設する際には事故がないように十分な保護、安全確保に努めてきたが、事故報告もあり、常設設備を用意する時期に来たと思っている。

新年度予算編成にあたって、担当課あるいは実行委員会と意見交換し、できる限り仮設施設で事故等が起きないように対応させていただきたい。

## 一般質問

ここが聞きたい

## ふるさと納税

### 企業版ふるさと納税の取り組みは

**答** 特定の企業に営業している



下司義之 議員

**問** ふるさと納税はますます注目されている。厚真町においても平成27年度1億4000万円強の納税があり、そこから生み出される財源、さらに返礼品として取り扱われる特産品の流通も地域経済に大きく影響するようになった。

そんなふるさと納税は、今まで個人が対象であったが、平成28年税制改正において、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）が創設された。厚真町の取り組み方針は。

**町長** 町としては総合戦略にある各プロジェクトの中で、今現在、国が手当てしていただいている地方創生交付金以外で、なかなか財源の確保が難しい事業について、この地域再生計画に載せて、企業と連携を密にしてプロジェクトを有効に進めていくということを考えていて、現在、特定の企業に営業をしているところである。

## 商工振興

### 商工振興補助金がニーズに対応していないのでは

**答** うまく育てていきたい

※地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）  
この税制は、地方自治体による地方創生プロジェクトに対して寄附した企業に対して、寄附した企業に税額控除するというものである。道内においては、夕張市のコンパクトシティの推進加速化と地域資源エネルギー調査など、4つの事業が承認されている。

**問** 「商工業経営近代化促進補助金」は、本年度より「商工業経営強化補助金」と名称を変更し、補助内容、限度額の増額期間中の募集などの変更を行った。結果、昨年10万円程度だったものが、本年度は8月末までの要望で700万円以上になり、今後も増額が予想される。

制度の見直しにより希望者がこれだけ増えたということは政策効果があったと判断できると思う。一方、旧制度の方が利用しやすかったという声もあるが見解は。

**町長** これまでは、メニューを決めて、そのメニューであれば効果とか目的はあまり問わなかったが、これから先の政策誘導効果を高めるためにもやはりその事業に取り組む方々に目的意識をしっかり持ってもらうのが大前提で、基本的には、あくまでその目標と効果については審査をさせても

らう流れになっている。時間がなくて議論が不十分だったところは反省するが、商工業者の振興が図れるようにこの制度をうまく育てていきたい。

（こんな質問もしました）  
所信表明

**問** 児童会館を新築するのにか。  
**町長** 厚真地区の会館を建て替えたいと考えている。



吉岡茂樹 議員

### まちづくり

問 本年第1回定例会において、昨年1月末で撤退したヤマト運輸厚真宅急便センターの企業貸付建物第1号棟の今後の活用方法に対する考え方があるのか、また、私から活用方法について、新たな町の魅力創造や知名度アップ、観光・交流の振興、地域活性化、移住・定住の促進などを提案した。町長は、民間の方々の経済活動で雇用が生ま

## 遊休公共施設の活用状況について

答 8月1日付けで契約締結した



企業貸付建物第1号棟

れるほうを優先すると答弁したが、答弁のような形になっているのか。また、賃貸期間と賃貸額は、  
町長 4月15日から5月31日までの間、経済活動をメインとした事業のために、この施設を活用す

### 障がい者福祉

収支は段々に改善されていく内容であった。  
厚真町には十分該当する対象者がいる。そして、近隣の町にもPRし、人数については確実に確保できるものと理解した。  
町民の負託に応えた施設というが、収支の穴埋

問 厚真町複合型地域福祉活動施設内の就労継続支援B型について、当初の設置計画調査特別委員会の説明は、平成27年度5名、平成28年度6名、そして7名というような形で、

町長 当初の事業計画については、町としても精査したが無理のない計画と判断した。現在、B型の利用者は13名いる。13名のうち、平成28年度はしゃべーるを利用した方が登録者で4名、実際には3名が中心で、当初の計画を利用者が下回っているという状況である。利用者の減少に伴う収入減に関しては、補てんをする契約になっている。  
また、この施設は厚真町に必要な施設なので、

めを行政が行うということだが、説明どおりに遂行されているか。

より効率的に運営できるように検討していく。

答 当初計画を利用者が下回っている

## 就労継続支援B型の遂行状況は

る意欲のある事業者の公募をした。1社から応募があり、土地と建物を活用して事業の拡大と雇用の拡大を図るという提案

は厚真町の振興に非常に有益であると考え、その1社の提案を採用し、8月1日付けで契約を締結した。現実的に、増車と

雇用の拡大を図っている。賃貸期間は、平成31年3月31日までに、賃貸額は、月額13万5200円である。



複合型地域福祉活動施設

# 国に物申す 3つの意見書案を可決

第3回定例会において「地方財政の充実・強化を求める意見書」、「所得税法第56条廃止を求める意見書」、「林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書」が提出され、すべて可決されました。（賛否状況は16ページをご覧ください）

## 地方財政の充実・強化を求める意見書

地方自治体は、子育て支援、医療、介護などの社会保障、環境対策、地域交通の維持など、その果たす役割が拡大していることに加え、人口減少

問題への対応など、新たな政策課題に直面しており、こうした課題に適切に対応していくためには、地域の財政需要を的確に見積もり、これらに見合う地方交付税及び一般財源総額を確保することが極めて重要である。

こうした状況の中、本年6月2日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2016」においては、平成32年度の財政健全化目標の達成に向け、経済・財政一体改革が推進されている。

地方自治体が、今後も質の高い公共サービスを持続するためには、実態に見合った歳出・歳入を

的確に見積もり、国と地方自治体の十分な協議を保障した上で、地方財政計画、地方税、地方交付税のあり方を決定する必要がある。

よって、国においては、公共サービスの質の確保と地方自治体の安定的な行政運営を実現するため、平成29年度の地方財政計画、地方交付税及び一般財源総額の拡大に向けて、次の事項について適切な措置を講ずるよう強く要望する。

1 社会保障、環境対策、地域交通対策、人口減少対策など、増大する地方自治体の財政需要を的確に把握するとともに、地方の安定的な財政運営に必要となる一般財源の総額を確保すること。

2 子ども・子育て支援

新制度、地域医療構想の策定、地域包括ケアシステム、生活困窮者自立支援、介護保険制度や国民健康保険制度の見直しなど、急増する社会保障ニーズへの対応と人材を確保するための社会保障関係予算の確保及び所要の地方財政措置を講ずること。

3 地方交付税における「トップランナー方式」による算定により地方自治体の行政運営に支障が生じないよう、地方交付税の財源保障機能を適切に働かせ、住民生活の安全・安心を確保することを前提にするとともに、人口規模の違いなど地域の実情を踏まえたものとする。

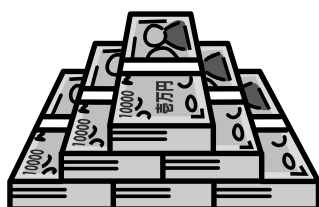
4 地域間の財源偏在性の是正のため、引き続き税源の偏在が小さく税収が安定的な地方税体系の

5 地方交付税の財政調整機能の強化を図るため、留保財源率を見直すこと。また、人口減少が地域間のさらなる財政力格差の拡大を招かないよう、地方交付税の算定方法について、面積的要素の拡充や、市町村合併の算定特例の終了を踏まえた新たな財政需要の把握、小規模自治体に配慮した段階補正の強化などの対策を講ずること。

提出者  
井上次男  
賛成者  
木戸嘉則  
木本清登  
三國和江

提出先  
吉岡茂樹  
大捕孝吉  
森田正樹

衆議院議長  
内閣総理大臣  
財務大臣  
総務大臣  
経済産業大臣  
内閣官房長官  
内閣府特命担当大臣  
(地方創生担当)



# 所得税法第56条廃止を 求める意見書

所得税法第56条は家長制度の廃止により、個人単業主義を原則としたことで、家族間で所得を分散し、不当に累進課税を逃れる租税回避的な行爲が横行することを防止する趣旨のもと制定された条項である。

しかし、法が制定された昭和25年当時と比べると、女性の社会進出や家族観など社会通念も大きく変化した今日、伝統的な法解釈だけで合理的な判断を下すことが困難な時代背景となっている。

事業主の所得から控除される自家労賃は、配偶者の場合で86万円、家族で50万円だけであり、このわずかな控除額が、家族従業者の所得とみなされるため、子どもが結婚しても家や車のローンにも事業主名でなければ組めないなど、社会的にも経済的にも全く自立でき

ず、後継者育成にも大きな妨げとなっている。

よって、国におかれては、所得税法第56条を廃止し、家族従業者の賃金を必要経費として認められるよう、時代に即した概念の元に、国における抜本的な税制改正論議の中で見直しを図ることを求めるものである。

提出者

三國和江  
賛成者

木本清登  
大捕孝吉  
井上次男  
木戸嘉則

提出先

衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
財務大臣  
厚生労働大臣  
経済産業大臣

# 林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の 充実・強化を求める意見書

本道の森林は全国の森林面積の約4分の1を占め、国土保全、地球温暖化防止、林産物の供給等の多面的機能の発揮が期待されており、これらの機能を十分に発揮させるためには、「植えて育てて、伐って使って、また植える」といった森林資源の循環利用を進める必要がある。

また、森林の整備を進め、木材を積極的に利用して林業・木材産業の成長産業化を図ることは、山村地域を中心とする雇用・所得の拡大による地方創生にも大きく貢献するものである。

このような中、道では、森林の公益的機能の維持増進や森林資源の循環利用の実現に向け、森林整備事業及び治山事業や次世代林業基盤づくり交付金等を活用し、植林・間伐や路網の整備、山地災

害の防止、木造公共施設の整備など、さまざまな取り組みを進めてきたところである。

今後、人工林資源が本格的な利用期を迎える中、こうした取り組みをさらに加速し、地域の特性に応じた森林の整備・保全を着実に進めるとともに、森林資源の循環利用による林業・木材産業の成長産業化を実現するための施策の充実・強化を図ることが必要である。

よって、国においては、次の措置を講ずるよう強く要望する。

総務大臣  
文部科学大臣  
農林水産大臣  
経済産業大臣  
国土交通大臣  
環境大臣  
復興大臣

1 「森林環境税(仮称)」等を早期に創設し、森林の整備や木質バイオマスの有効利用など、森林吸収源対策を推進すること。

2 森林の多面的機能を持続的に発揮し、林業・木材産業の振興と山村に

おける雇用の安定化を図るため、森林整備事業及び治山事業の財源を十分かつ安定的に確保すること。

3 森林資源の循環活用を通じて林業・木材産業の成長産業化を実現するため、地域の実情を十分踏まえ、森林整備から木材の加工・流通、利用までの一体的な取り組みに対する支援措置を充実・強化すること。

提出者  
大捕孝吉  
賛成者  
高田芳和  
伊藤富志夫  
吉岡茂樹  
三國和江

提出先  
衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
財務大臣



## 定例議会の議決案件（賛否状況）

平成28年 9月 8日（木）～ 9日（金）

議案番号	議 件 名	賛 否
同意第 1 号	厚真町副町長の選任	同意全員
同意第 2 号	厚真町教育委員会委員の任命	同意全員
承認第 1 号	専決処分（平成28年度厚真町一般会計補正予算（第 3 号））の承認	賛成全員
承認第 2 号	専決処分（平成28年度厚真町一般会計補正予算（第 4 号））の承認	賛成全員
承認第 3 号	専決処分（平成28年度厚真町介護保険事業特別会計補正予算（介護サービス事業勘定（第 2 号）））の承認	賛成全員
議案第 1 号	財産の取得	賛成全員
議案第 2 号	財産の取得	賛成全員
議案第 3 号	平成28年度厚真町一般会計補正予算（第 5 号）	賛成全員
議案第 4 号	平成28年度厚真町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 1 号）	賛成全員
議案第 5 号	平成28年度厚真町簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）	賛成全員
議案第 6 号	平成28年度厚真町公共下水道事業特別会計補正予算（第 1 号）	賛成全員
議案第 7 号	平成28年度厚真町一般会計補正予算（第 6 号）	賛成全員
陳情第 1 号	青果物予冷貯蔵施設建設に係る支援要請	賛成全員
認定第 1 号	平成27年度厚真町一般会計歳入歳出決算の認定	決算審査特別委員会に付託
認定第 2 号	平成27年度厚真町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定	決算審査特別委員会に付託
認定第 3 号	平成27年度厚真町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	決算審査特別委員会に付託
認定第 4 号	平成27年度厚真町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定	決算審査特別委員会に付託
認定第 5 号	平成27年度厚真町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	決算審査特別委員会に付託
認定第 6 号	平成27年度厚真町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	決算審査特別委員会に付託
意見書案第 1 号	地方財政の充実・強化を求める意見書	賛成全員
意見書案第 2 号	所得税法第56条の廃止を求める意見書	賛成多数
	棄権（木本議員）	
意見書案第 3 号	林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書	賛成全員



# 議会及び議員の活動報告

日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
日	曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
		平成28年7月の議会の動き	第3回臨時会	第38回北海道厚真福祉会運動会		北海道町村議会議員研修会	平成28年度勇払東部地区国営農業用水再編対策事業促進期成会及び厚幌ダム建設促進期成会要望活動		議会広報特別委員会				苫小牧地方総合開発期成会札幌要望		町内行政視察	議会広報特別委員会						胆振振興局との行政懇談会(～21日)	総務文教常任委員会	産業建設常任委員会	浜厚真・苫小牧救難所夏季合同訓練	交通安全指導委員会・交通安全協会合同研修	現金出納例月検査 平成28年度勇払東部地区国営農業用水再編対策事業促進期成会及び厚幌ダム建設促進期成会要望活動(～26日)	定期監査(備品監査、財務事務監査)		財政援助団体等に関する監査 ともいきの里夏祭り		第33回あつま海浜まつり

日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
日	曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
		平成28年8月の議会の動き				定期監査(学校監査)			町内6団体親睦パークゴルフ大会	決算等審査(事前)	北海道厚真福祉会夏まつり									産業建設常任委員会		集まりンピック	決算等本審査	北海道町村議会広報研修会	決算等本審査	現金出納例月検査 基金の運用状況審査	健全化判断比率・資金不足比率関係書類審査				胆振東部消防組合議会定例会	厚真町戦没者追悼式 亀井一雄氏叙勲伝達式

日	曜	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
日	曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
		平成28年9月の議会の動き	議会運営委員会 北海道厚真福祉会合同法要	苫小牧厚真会総会	さつぼろ厚真会総会				議会運営委員会 第3回定例会	議会広報特別委員会 議員協議会	第3回定例会 全員協議会 議員協議会	勇払東部地区国営農業用水再編対策事業促進期成会総会			厚真町敬老会	厚真神社例大祭(宵宮)	厚真神社例大祭(本大祭)					セーフティコール 第44回あつま田舎まつり 反省会・懇談会	厚真町120年記念式典		厚真中学校学校祭 厚南中学校学校祭	現金出納例月検査	議会広報特別委員会 産業建設常任委員会				

# 伝わる

## 「議会だより」をめざして

### 議会広報研修会レポート



(ポールスター札幌での研修の様子)  
「町民のための議会だよりは「伝えるから伝わる」ものへ、より一層読まれる内容へと進化すべき」と話す芳野氏



「広報研修で学んだこと」

議会だよりの目的は、住民の議会への関心を高め、地域の課題共有や行政執行機関の監視機能を町民に代わり行使し、分かりやすい判断材料を提

供して住民福祉の向上につなげることにある。講師の芳野氏は「行財政等の情報を『伝える』ものから『伝わる』編集技術に挑むべき。行政と議会は『機関対立(競争主義)』をとる。議決後の審議状況を広報することで地方自治が機能し、議会活動を情報公開することで、住民の知る権利や批判の自由が確保される」と話されていた。今後、町民からのご意見や批判等をいただき、読まれる議会だよりを目指していきます。

## スポーツ少年団紹介

## 厚真ファイターズ

紹介者：指導者 遠藤 秀明さん

団員は、小学校の1年生から5年生までの16人です。6年生がいないので、今シーズンの成績は1勝だけ。それでも、久しぶりの勝利に子どもたちはもちろんのこと、応援に駆けつけた父母の皆さんは大喜びでした。試合には、いつもたくさんの父母や家族が熱い声援を送ってくれます。

4月から9月上旬までは火曜、木曜、土曜日の週3回、厚真中央小学校グラウンドで練習しています。9月中旬から10月までは、かしわ公園野球場でナイター練習、11月から春までは練習場所をスタードームに移します。

来シーズンからの活躍が大いに期待できる厚真ファイターズです。

